様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：６２６０８
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ２１６４０

研究課題名（和文）『古事類苑』の共有と近代古典学の解析のための基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research for sharing of "Kojiruien" and analysis of modern classical science

研究代表者
相田　満（AIDA, MITSURU）

国文学研究資料館・研究部・准教授

研究者番号：００２４９９２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,800,000円

研究成果の概要（和文）：『古事類苑』1896年（明治29年）から1914年（大正3年）の19年間をかけて完成した、日本最大規模の百科全書である。本研究は当該辞書の電子化テキストデータ(既存入力分)を青空文庫形式で表示するためのマクロプログラムを開発した。青空文庫形式のデータは、可読性と容易な筆記性にすぐれ、豊富なツール群の利用により、版面情報をそのままに再現可能である。研究では変換データとともに公開した（http://koji-knowledge.jp/public_html/txt/）。また、『古事類苑』の引用書から原本を特定できる記事を分析し、原典との比較を行う事で『古事類苑』の本文の特質を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究を通じて、近代における文学研究において甚大な役割を果たした『古事類苑』を青空文庫形式により可搬的かつ増補・改変が比較的容易に共有できる青空文庫形式により公開できた。また、研究の途上で『古事類苑』の記述に負うて著された著名作品（保田與重郎「日本の橋」）を発見することが出来たことは、『古事類苑』の学術的・社会的意義を顕著に示せたものといえよう。
研究を進めるに際して『古事類苑』に関りの深い蔵書を有する図書館の整備を進めることができた。特に、諏訪文庫・無窮会図書館の蔵書群は現在整理中の段階にある中で、本研究を通じてこれらの意義を発信する一助となった意義は大きい。

研究成果の概要（英文）："Kojiruien" is Japan's largest encyclopedia, completed over 19 years from 1896 (Meiji 29) to 1914 (Taisho 3). This research developed a macro program to display electronic text data (existing input) of the dictionary in Aozora Bunko format. Data in the Aozora Bunko format is excellent in readability and easy writing, and by using a rich set of tools, it is possible to reproduce the page information as it is. The research was published together with the converted data (http://koji-knowledge.jp/public_html/txt/). In addition, I clarified the characteristics of the text of "Kojiruien" by analyzing the articles from which the original can be identified from the quotations of "Kojiruien" and comparing them with the original.

研究分野：人文学

キーワード：古事類苑　日本古典学　青空文庫　電子化テキストフォーマット　百科全書　類書　　無窮会　井上頼圀

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究者は協力者（国際日本文化研究センター）とともに、前近代の知識を統御可能なインデックスナビゲーションとしての機能を最大限に負わせるべく、『古事類苑』の全文テキストデータベース化を2003年から進めてきた。データ入力は2018年度中には全67,159頁中の16,942頁を終える予定で、毎年数百頁分の入力分を累加・公開してきた。しかしながら、残余の入力を両名の任期中に果たすことには限界があり、全文入力の継続と、既入力資源の有効活用について考えることが喫緊の課題となっていた。

そこで、本研究は既存の蓄積資源を糧に、

A.『古事類苑』の特性を最大限に生かしたシミュレーションを進める

B.上記現状を踏まえた、全文入力の継続的方途の摸索

C.『古事類苑』の内容の解析

という3点を主目的に研究を進めるために、Bの実現について、全文入力方式に青空文庫形式を採用、学習教材としても有用な入力手ツールの実現を目指すとともに、『古事類苑』の全引用書データを基礎にして当該叢書の原典との比較による分析を行う事で、『古事類苑』自体の本文の価値を位置づけることを目指す必要があった。

2. 研究の目的

『古事類苑』の価値を社会的に喚起して関心を高め、継続入力への道を拓くために、既存および累加蓄積中の『古事類苑』全文テキストデータと全引用書名データを利用して、下記の取り組みを行うものである。

A.『古事類苑』の特性を最大限に生かしたシミュレーション

ｏ応募者と分担者によって構築された『古事類苑』全文データベースに入力された漢文の返り点に囲まれた語句に着目することで、辞書未掲載の大量な要語の抽出を行い、『古事類苑』各部の小大項目と連関させた構造に着目して研究資源を構築する。

B.上記現状を踏まえ、全文入力の継続的方途を摸索する

縦書き・両ルビ・割り注に対応する青空文庫形式テキストへの変換による携帯デバイスによる読書体験の実現をはかるとともに、継続的入力のための道を拓く。

C.『古事類苑』本の析出と内容の解析

編纂に使用された原本の素性の特定と、編纂委員達の校訂作業によって新たに創り出された本文（『古事類苑』本）の実態を明らかにする。

Ｄ.『古事類苑』の有効な活用のためにＢにより形成された青空文庫形式によりデータの拡張を試みる

3. 研究の方法

A.『古事類苑』の青空文庫形式化については既存データを青空文庫形式に改めるためのマクロプログラムを開発し、その有効性を実証するとともに、縦書き・両ルビがキチンと表示されていることと、1000頁を超える文書を可搬テキストとして自在に利用できるか評価を行う。

B.『古事類苑』本の析出と内容の解析

国会図書館蔵の『古事類苑稿本』および神宮文庫藏の『古事類苑』稿本の分析を進める。具体的には、稿本から現存本に至る改稿の後をたどり、併せて改稿状況を青空文

庫形式で記述することが可能かを確認する。

C.『古事類苑』引用書データの内から、特色ある引用書の分析を抽出して分析する

1.研究成果

研究期間に行われた研究を通して得られた主な成果の概要は、図①の通り3点にまとめられる、それぞれ、まとめて略述する。

Ⅰ 全文データの累加

この作業は、今後データの入力作業を進めるに際し、直接青空文庫形式で入力を行うか、これまで通りの入力方式を行った上で、青空文庫形式によるデータ形式への変更を行うかについての見極めを行うためのものでもあった。

本研究で従来蓄積してきたマスタデータ（識別データと呼称する）は、『古事類苑』に特化した情報タグを付加した記述がなされたものである。具体的には、

階層化された見出し情報・漢文返り点・外字・割り注表記・表・図・系図・引用書・参考書（主に中国書）などを持つものであるが、制定当初の青空文庫形式がJIS漢字の範囲内で定義された文字セットによるものであった。そのため、外字データの記述で、「**拷**（むし）る」を入力するには、

喉を掻き※［＃「てへん＋劣」、第3水準1-84-77］《むし》って

のように記述しなくてはならない。しかしながら、このような状況が多少なりとも改善したのが、JIX X 213の制定で、青空文庫形式に対応するビュアーツール群は、基本的にUTF-8に対応するため、UNICODEコンソーシアムの制定に対応したの拡張部分（JIS X 212）との整合性を図って、 第3・第4水準も増加した日本語の漢字セットが青空文庫の基本的漢字セットとなった結果、青空文庫で使用される外字は激減した。

上記の、「**拷**（むし）る」を表現するための注記も、既にUTF-8に対応することがデフォルトとなりつつあるツール群を使う限りには、JIS X 213内のは第3・4水準字の注記は不要であるため、本件で扱う『古事類苑』の外字データはUTF-8をベースに入力することで外字の数を圧倒的に減らせることができた。

その結果、図③に示す「OyajiViewerを使用して原本書影を再現」のように、図や注記をデータに付与することで拡張版の『古事類苑』を作成することも可能となった。

なお、本研究を遂行するに際して、データ入力作業における新たな発生要件で校正の負担を初めとする負荷の多寡やプログラムマクロの確実性を検証するために、新たに遊戯部の入力を500頁程度の入力を既存のマスタデータ形式による入力作業を行い、青空文庫形式の形成に変換する方式で入力を行った。

この方式は、初めから青空文庫形式により入力方式を行うよりも、大幅な省力化を果たすことができたことが明確になった。特に最も負担の大きい校正が、3日以内で済んだことは、本方式の有効性を立証するものといえる。

なお、本研究の結果、『古事類苑』の全文入力状況は全67,159頁中の19,863頁（全体の約3割）、全30部中の15部に達した（2022年度）。

また、この入力作業で入力された全文データ（マスタデータ）の既入力分は、研究協力者の元で、全文データベースに変換されて公開されている（古事類苑全文データベース［国際日本文化研究センター］https://ys.nichibun.ac.jp/kojiruien/）。

Ⅰ　青空文庫形式への変換

蓄積資源の全文データベースマスタから青空文庫型マスタへの変換マクロを作成し、それにより既存資源に対して縦書き・両ルビ・割り注等の版面に対応した読書を可能として公開した（http://koji-knowledge.jp/public_html/[データダウンロードサイト]）。

図①の青空文庫形式ソースは、漢文両ルビや割り注表記を含む文書である。これらの縦書き表示を可能とするツールには、従来よりAir草紙のみだったが、研究期間中にOyaziViewerが対応していることが判明した。

そこで、形成途上とは言え、量にして全体の３割、部立数にしてほぼ半数に上る『古事類苑』既存マスタデータ（職別（しきべつ）テキストと呼称）に、本研究で開発したプログラムマクロをあてて、青空文庫形式に改めたソースデータと対照させて縦書き表示でして示したものが図②である。

また、図③は青空文庫形式に改めたデータを縦書き対応ビュアー（2種）を使用して示したものである（『古事類苑』の当該箇所は地部一2頁）。読み込み速度も全く問題なく、『古事類苑』の地部(全3冊)のように洋装本で各冊1,300～1,500頁の大量なデータについても問題なく読み込み、縦書き表示が実現できた。

Ⅲ　増補・改訂版『古事類苑』の準備

通覧・熟読という読書行為の電子テキスト媒体で行うことを目的とする「青空文庫」の趣旨をさらに発展させて、本申請研究を企画するに至った問題意識の根底には、データベースの入力が進み、大量の情報を瞬時に検索可能になってきた状況下、『古事類苑』の本来の編纂趣旨にあった「通覧を旨とする西洋型百科全書」の特徴は、大量データの増殖下により失われたと言っても過言ではない現状認識がある。

もとより、大量の情報を検尋可能となることへの利便性と可能性を否定するものでは無いが、『古事類苑』の編纂が当初より系統づけられた体系を読者に示し、そこから新たな知見を生み出されることが期待されてのことであった。

数千頁のファイルを読むことに対応する青空文庫型データに対応するビュアーのしおりと注釈ツールが汎用的となっている現状は、新規・改訂の『古事類苑』を作成・公開し、共有することにより果たすことを可能としている。

本研究を進めることにより新たに加えることが出来る注釈情報は、次の通りである。

A.『古事類苑』編纂過程における講典講究所・神宮司庁時代に作成された稿本・見本版との差異

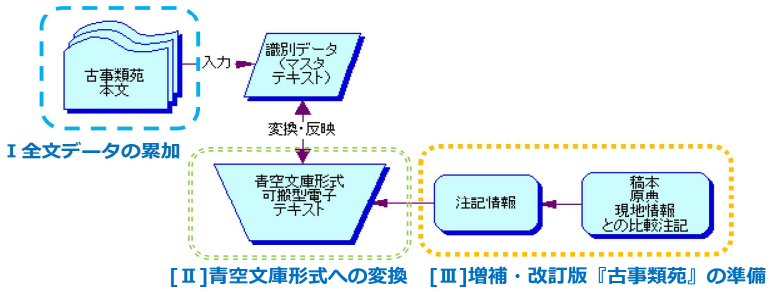
Ｂ.『古事類苑』を使用して作成された文献や文芸作品

Ｃ.『古事類苑』全文データの入力作業を通して見つかった『古事類苑』の誤植

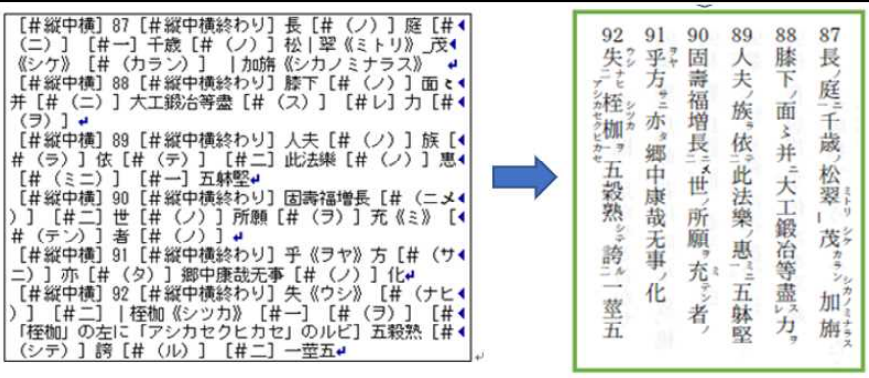
である。いずれも反映作業は途中で公開データに反映させることは完了していないが、ＡＢについての具体的な内容の一部は論文に著した（相田）　『古事類苑』の全文データの入力は途上だが、全引用書名データを利用して、全体からの分析は可能なので、これにより『古事類苑』の引用原本の同定を行うことで、分析を深める。

D.増補・改訂版『古事類苑』を念頭に置く関連資料と実地の調査

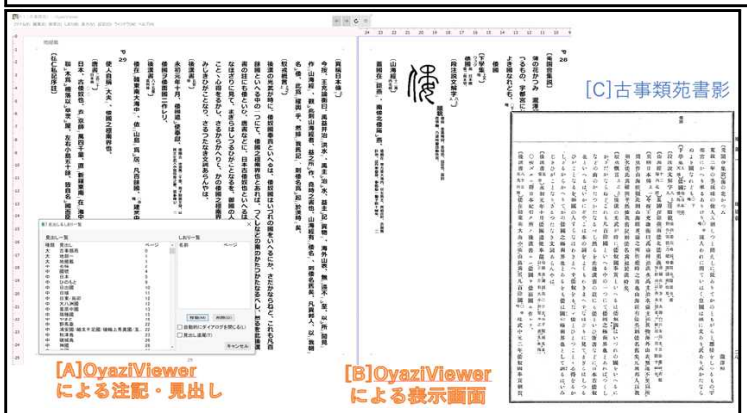
記述される関連地域・事物の実地調査行うとともに、既入力分の『古事類苑』校正時に記された特記事項を整理することで、増補・改訂版『古事類苑』の基礎原稿とする。



図①　期間中の研究成果概観図



図②　縦書・両ルビ等を有する青空文庫形式データのビュアー表示



図③　OyajiViewerを使用して原本書影を再現

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 相田満	４．巻 49
２．論文標題 生き物供養・何でも供養の連関性―橋供養碑の場合	５．発行年 2023年
３．雑誌名 国文学研究資料館紀要文学研究篇	６．最初と最後の頁 177～198
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 相田 満	４．巻 48
２．論文標題 『古事類苑』のつくられ方――『河海抄』『醍醐枝葉抄』『神相全編正義』を例として ――	５．発行年 2022年
３．雑誌名 国文学研究資料館紀要 文学研究篇 = The Bulletin of The National Institure of Japanese Literature	６．最初と最後の頁 167～196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24619/00004448	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 相田満	４．巻 Vol.32,№.2
２．論文標題 『古事類苑』の共有と近代古典学の解析のための基礎的研究	５．発行年 2022年
３．雑誌名 情報知識学会誌	６．最初と最後の頁 208－213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2964/jsik_2022_011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 相田満	４．巻 116
２．論文標題 無窮会専門図書館珍蔵善本紹介　『梅之舎随筆』梅之塵二巻（長崎亦次郎天保十五成立。写本1冊。井上頼国本）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 東洋文化	６．最初と最後の頁 41－44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 相田満	４．巻 卯-2
２．論文標題 《解題/抄録》古事類苑	５．発行年 2019年
３．雑誌名 国立国会図書館デジタルコレクション	６．最初と最後の頁 1－1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 相田満	４．巻 本別3-26
２．論文標題 《解題/抄録》河海抄　20巻	５．発行年 2019年
３．雑誌名 国立国会図書館デジタルコレクション	６．最初と最後の頁 1－1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　1件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 相田満
２．発表標題 『古事類苑』の共有と近代古典学の解析のための基礎的研究
３．学会等名 情報知識学会大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 相田満
２．発表標題 『古事類苑』のつくられ方
３．学会等名 総研大文化フォーラム２０２０（ZOOM）
４．発表年 2020年

１．発表者名 相田満
２．発表標題 『訓蒙図彙』の意匠と変容ー幼学・啓蒙書から百科全書への変容を位置づける
３．学会等名 広領域連携型基幹研究プロジェクト 異分野融合による「総合書物学」の構築：文化・情報の結節点としての図像(絵入百科事典研究会)（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 相田満
２．発表標題 『訓蒙図彙』の意匠と受容の一斑―「訓蒙」の継承と権威―
３．学会等名 第146回和漢比較文学会例会（東部）
４．発表年 2020年

１．発表者名 相田満
２．発表標題 「生き物供養」と「何でも供養」―日本における系譜―
３．学会等名 2021年中國文化大學國際暨外語學院日本語文學系　國際學術研討會―跨領域學術研究：時間與空間的匯流―（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計2件

１．著者名 山田奨治・石上阿希	４．発行年 2021年
２．出版社 晃洋書房	５．総ページ数 136
３．書名 文化・情報の結節点としての図像??絵と言葉でひろがる近世・近代の文化圏	

１．著者名 相田満	４．発行年 2021年
２．出版社 勉誠出版	５．総ページ数 280
３．書名 観相の文化史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

古事類苑―青空文庫版―（ダウンロードページ）
http://koji-knowledge.jp/public_html/txt/
古事類苑全文データベース（国際日本文化研究センター：山田奨治担当）
https://ys.nichibun.ac.jp/kojiruien/index.php
国文学研究資料館古事類苑アーカイブス
https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_uri&item_id=4735&block_id=21#_21

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山田　奨治 (YAMADA SHOJI) (20248751)	国際日本文化研究センター・研究部・教授 (64302)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関